群馬県立大泉高等学校　学　校　評　価　一　覧　表　①（令和２年度版）

（様式１）

羅針盤				第１回 点検・評価			第２回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方　策	自己評価	外部アンケート等	改　善　策	自己評価	外部アンケート等	改　善　策
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	○本校でなければ学ぶことのできない授業や各科の特色ある教育課程に７５%以上の生徒が満足している。 ○「大泉高校で学ぶことができてよかった」と感じる生徒の割合は80%以上である。	○一斉休校措置との関連において、本校で提供する授業や教育内容や教育課程の見直しを進める。また、オンライン授業等のＩＣＴ活用について研究を進める。 ○授業開始時や単元などの節目を捉え、学習目標や評価方法について適宜説明する。 ○授業や学校行事の見直し等を通じ、本校への帰属感や目的意識を醸成できるようにする	B	B	○一斉休校措置にともなう授業確保への対応として、単元レベルでの指導内容の精査と、代替措置を記録することを各担当者に要請している。また、オンラインによる外部講師の活用等にも取り組んだ。 ○授業の年度当初および授業ごとに、学習目標等を説明することは約8割の生徒が評価しており、概ね定着してきた。 ○感染症対策の観点から行事の精選等に取り組んでいるが、中止や変更の場合、当該行事が担う目的や意義を達成するための手だてについて、明示することが必要である。	A	A	○一斉休校措置に伴う授業の関係で行事の精選や指導内容の精査に取り組んだが、感染症予防対応など、限られた状況の中でも、授業や学校生活に関する評価は生徒・保護者とも概ね満足との評価している。次年度も今年度並みの制約が課せられることを前提に、行事の立案をしたい。 ○学習目標の提示や行事の役割・効果に関する事前指導については生徒の行動変容にもつながるので引き続き、充実を図りたい。
		○「交流学習」や「一日体験学習」、「泉農フェア」などの生徒が主体となって地域連携する活動に80%以上の生徒が意義を理解し、半数以上の生徒が活発に参加している。 ○「課題研究」等の専門科目や「総合的な学習（探究）の時間」を通して生徒自身がテーマを設定し、その解決を図るための学習活動に生徒の75%以上が積極的に取り組んでいる。	○実施する活動の意義や役割、内容・方法等についての事前・事後指導を十分に行ない、生徒の主体的な活動を導き出す。 ○社会人講師の活用やプロジェクト学習の指導等を通じ、テーマ設定や研究計画・調査・まとめなどの、一連の学習過程を適宜明示するほか、研究内容を発表する場面を設けることで、その定着を図る。	B	B	○新型コロナウィルスへの感染予防の観点から「泉農フェア」の中止や「交流学習」は規模の縮小が余儀なくされている。「一日体験学習」に関しては例年の方法と変更点も多いこともあり、事前・事後指導は入念に行われている。 ○「課題研究」「総合的な探究（学習）の時間」についても例年と異なる指導スケジュールを再構成して指導に当たっているが、本校で培ってきた指導方法を両科目で育てるべき学力を明示しながら引き続き指導したい。	A	A	○新型コロナウィルス感染症への対応で「泉農フェア」「交流学習」等は中止または規模縮小が求められた。これらの行事が担っていた役割をどの行事で代替すべきか、行事の精選を進めたい。 ○「課題研究」「総合的な探究（学習）の時間」について、授業数削減の中でも例年並みの成果を達成することができた。引き続き、身につけさせたい資質・能力を明示し、指導に充たりたい。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○選択や習熟度による少人数授業やグループ学習・実習等の学習指導に75%以上の生徒が満足している。 ○授業中の生徒指導により80%以上の生徒が学習ルールを守って学習している。	○「３密」への対応を進めるなかで、年２回の授業評価アンケートを実施し、実態把握を行い、改善の指標とする。 ○授業の様子は学年や学科等で情報共有し、自己啓発を促す指導に取り組む	B	B	○授業評価アンケートは今年度初めて、Google Classroomを活用し実施し、実態把握の効率化を図った。生徒調査の数値では約8割の生徒が学習ルールを守って授業に臨んでいる。 ○授業の様子は学年会や職員会議などで情報共有しているが、授業改善につなげられるよう、情報の質の改善に努めたい。	B	B	○授業評価アンケートでは生徒・保護者とも少人数授業や実習等に関する好意的な数値が見られたが、冬季となり、服装面に関する学習ルールについて、注意が必要な場面が増えた。授業規律の確保の観点から指導を充実させたい。
		○各科で取得できる資格と資格取得に関する指導に70%以上の生徒が満足している。 ○各科の資格取得率が平均して60%以上である。	○資格に関する啓発的な情報提供と各科・教科における計画的な指導によって、生徒の学習と資格取得の意欲の向上を図る。	C	C	○一斉休校の影響で、上半期は検定の回数や指導期間が十分確保できなかった。10月初旬に英語検定を２年農業科で全員受検させたが、感染症対策に留意しながら環境整備を進めたい。	B	B	○資格取得の目標をはっきりとさせ、計画的な指導を引き続き行う。各科や教科での特色ある資格の案内や取得に向けて指導法等を再検討する。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	○各教科、科目の基礎的・基本的な内容について理解し、思考力、判断力、表現力などを70%以上の生徒が身に付けている。 ○各学期の定期試験の結果、学習成績不振者が10%以下である。	○教員相互の授業観察や授業研究会等を計画的に開催し、授業改善にむけた校内研修を複数回実施する。 ○成績不振者等に考査前の補充的指導を行ない、学習上のつまずきを改善する。	B	B	○生徒調査では、約８割の生徒が知識・理解に留まらず、思考力・判断力・表現力を育てる指導や考査問題に教員が取り組んでいると評価し、その傾向を職員で共有したい。 ○例年、２学期の中間考査において成績不振者数が増加する傾向があり、補充的指導の実施を徹底したい。	B	A	○生徒・保護者調査とも知識・理解に留まらず、思考力・判断力・表現力を育てる指導を評価している。引き続き、授業改善に取り組みたい。 ○成績不振者が多い授業の補充的指導を継続し、引き続き、「誰も取り残さない」体制を整えたい。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	○生徒の状況や指導に関して情報交換する会議を月に２回以上実施している。 ○職員の組織的・継続的な指導により75%以上の生徒が生き生きと学校生活を送っている。	○各分掌会議、職員会議や学年会議等において、生徒の情報交換を通して生徒の変化を早期に把握し、職員の共通理解のもと組織的に個に応じた指導の充実を図る。	A	B	○今年度は時間割の中に学年会を組み込むことができたので生徒の情報共有の体制は物理的に確保できている。 ○授業規律の確保に関する指導について、生徒調査では概ね前向きに指導を受け入れており、粘り強く指導を継続したい。	A	A	○学年会や各分掌の会議が定期的に機能し、新型コロナウィルス感染症に関する対応も含め、組織的対処することができた。生徒理解の関する情報共有なども含め、一層の充実を図りたい。
		○部活動や農業クラブの研究部活動に参加している生徒が60%以上である。	○今年度は感染症予防の観点から活動が制約されるが、各活動の意義や役割の側面から加入を促し、啓発的な指導を行う。	A	A	○７月の部編成時に約６割の生徒が部活動や農業クラブの研究活動に入部しており、今後も継続して加入を促す指導を行う。 ○部活動活性化のため各部の連携を図り、活動意欲を高める。	A	A	○約７割の生徒が活動に参加している。部活動の活躍や農業クラブの研究成果を周知する体制を整備し、より一層の活性化を図りたい。
		○教育相談の体制が十分であり75%以上の生徒が職員を信頼して相談できると感じている。	○ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰを有効に活用し､教育相談係と連携して生徒が相談しやすい環境を作る。 ○教育相談体制を整え、年に３回以上の二者面談期間を設ける。	B	B	○ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰだよりの発行を定期的に行い、不安や悩みを抱える生徒が相談しやすい環境を作る。 ○ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰを加えた教育相談定例会議で生徒の情報共有を行い、適切な対応を図る。	A	A	○ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰだよりの発行を定期的に行い、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰの来校日を周知するとともに、保護者の相談も可能であることを伝え、学校と家庭の両面からサポートする体制をつくる。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○いじめに関わる問題について、全生徒がいじめの未然防止・早期発見のため真剣に取り組んでいる。 ○早期発見に努め、発見率が100%である。 ○いじめの発生防止に努め、いじめが発生した場合は適切な指導を行い、解消率が100%である。	○いじめ防止やSNSに関するLHR等の実施を通じ、学校全体でいじめを許さない雰囲気作りに取り組む。 ○いじめに関する調査を定期的に実施し、組織的に情報共有を図るほか、いじめ防止基本方針について適切な対応を行う。	A	B	○授業規律と生活指導の徹底及び生徒情報の共有化を図り、いじめの起こりにくい環境作りに努めるととに、ﾄﾗﾌﾞﾙについては早期発見・早期指導を心がける。 ○各HRでいじめ防止にむけてのLHRを実施し、SNSやｲﾝﾀｰﾈｯﾄの正しい使い方といじめの起因にならない関わり方について継続的に指導する。	A	B	○いじめ認知件数は増えているが、早期発見に努めた結果でもある。解消について、組織的に対応し、適切かつ迅速に対処したい。 ○スマホ・SNSの利用については、SNSに頼らない人間関係づくりをテーマに、ＬＨＲ等の場を捉えて継続的な指導を図りたい。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	○１日の遅刻者数が平均して６人以下である。 ○１日の欠席者数が平均して６人以下である。 ○心身の不調により保健室を訪れる生徒が平均して１日に８人以下である。	○遅刻防止指導を年間６回設定する。 ○全職員で、登校時指導を実施する。 ○遅刻・欠席・保健室利用の多い生徒に対し、保護者への情報提供と連携を図り、生活習慣の改善を促す指導に取り組む。	B		○生徒の規則正しい生活環境作りのために、定期的に遅刻防止指導を行う。 ○保健室利用者の状況を日誌で毎日管理職に報告し、生活指導係と教育・発達相談係で生徒情報の共有化を図り、状況に応じて生活習慣の改善を指導する。	B		○遅刻防止指導と並行して検温及び健康観察を行い、生活習慣の改善指導と体調管理に努めた。 ○新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う欠席者や、日頃から欠席・遅刻を繰り返す生徒については保護者と連携し、組織的な改善を図りたい。
		○頭髪服装検査の結果、改善の指導を受ける生徒が10%以下である。	○職員が頭髪服装指導についての意識を高め、一致協力して指導の改善を図る。	A		○職員の共通理解を図り、日頃の声かけや定期的な服装・頭髪指導を通じ、統一した指導によって生徒の規範意識を高める。	A		○授業規律と日常の生活指導を通じて生徒の規範意識を高め、自己規律の資質を養う。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	○各学年の進路ガイダンスの実施時期や内容に75%以上の生徒が満足している。 ○進路実現のための二者面談等に70%以上の生徒が満足している。	○進路指導部と学年との緊密な連携を図り、３年間を見据えた計画的な指導を行う。 ○二者面談時に進路関係資料を配付説明したり、個別の進路相談に応じる。	C	C	○一斉休校に伴い、１・２学年の進路ガイダンスができていない。感染予防対策を講じ、実施にむけての準備を進める。 ○二者面談後に生徒が進路相談や調べ学習ができるように閲覧室の進路関係資料等を整備し利用しやすくする。	B	A	○１・２学年には最小限の進路ガイダンスしか実施することができなかった。学年団と協力し、補足的な学習ができるように指導していく。 ○進路閲覧室のレファレンス機能の充実に努める。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	○進路実現に向けて「自己の生き方」や「将来の職業」等について70%以上の生徒が真剣に考えている。 ○１年次に実施する就業体験学習を「将来の進路選択に役立つ」と考える生徒が70%以上である。 ○生徒の進路希望について80%以上の保護者が理解している。	○進路指導部と学年が連携し、出口指導に止まらない組織的・計画的な指導を行う。 ○社会人基礎力や職業スキルの習得、事業所研究等に注力した事前指導を行う。 ○三者面談をはじめ、様々な機会を捉えて、保護者への情報提供と連携を図る。また、個別相談に随時応じる。	C	C	○一斉休業に伴い、キャリア教育に関する諸行事が実施できておらず、今後、各科の授業やLHR等で「自己の生き方」「将来の職業」について考える機会を設定していく。 ○今年度は就業体験学習を実施できなくなったため、別な方法で働くことについて考えられるように計画をする。 ○三者面談時に進路関係の資料提供はできたが、中止になった進路行事も多いため、保護者への情報提供の改善を図りたい。	B	A	○各科の授業やLHR等で社会人講師や上級学校との連携授業等で「自己の生き方」「将来の職業」などについて考える機会がもてた。 ○就業体験学習に代替として実際に働く方をお招きしての「職業講話」を計画している。 ○進路指導部から情報の質や明朗さを意識した進路の情報を提供できるように改善を図る。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	○学校のホームページを月４回以上更新し、生徒・保護者･地域に学校の活動等の情報発信を行う。 ○三者面談の設定やホームページの更新などによる本校からの情報発信に、75%以上の保護者が満足している。	○ホームページの掲載記事に関し、各分掌からの原稿作成を促し、本校の教育活動が定期的に周知できるように心がける。 ○一斉休校措置における情報発信の重要性を鑑み、各学年・分掌などからの情報収集との連携において適切に対応する。	A	A	○ホームページの更新頻度は月４回以上、行われている。8月4日に群馬県庁特設スタジオからの動画配信を実施することを筆頭に、情報発信の多角化に取り組んだ。 ○情報発信の多角化に取り組むだけでなく、配信する内容についても改善を図れるようにしたい。	A	A	○ホームページに関し、YouTubeによる動画配信も含め、他校に比しても、先進的な取り組みをすることができた。 ○三者面談や本校からの情報発信に保護者調査でも一定の評価を得ており、今後も保護者が求める情報について分析を進めたい。